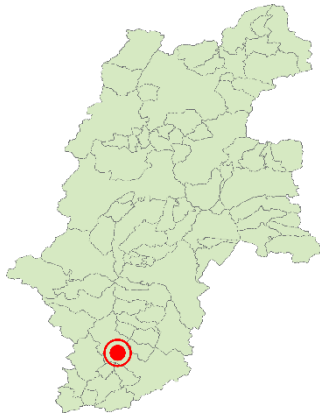




地域概要

当該地域は、伊那谷を流れる天竜川沿いに位置する。中心市街には飯田城が築かれ、江戸時代には飯田藩の城下町として、また三州街道（塩の道）の宿場町として栄えた。近代以降は製材業・製糸業が興り、そののちに精密機械工業が発達した。このほかにもりんご並木の街、人形劇の街としても知られ、城下町の面影を残す町並や保存された伝統芸能の多さから「南信州の小京都」とも呼ばれている。対象河川である松川は、天竜川の支川で、長野県から愛知県、静岡県を経て太平洋へと注ぐ一級河川である。



活動の背景

当活動地域では、近年、魚類や餌生物などの水生昆虫の生息場所となるヨシ帯が管理されず、本来の機能が損なわれている。また、特定外来生物のアレチウリの侵入・繁茂によって河畔植生の構造や機能が大きく変化・低下している。この侵略的外来植物の繁茂の影響は、植生構造の変化に留まらず、水域の生態系や遊魚などの親水利用を阻害する大きな要因になりつつある。そこで、河川環境の保全を図るとともに、地域住民に河川の現状を知ってもらい、地域一体となった取り組みを推進することにした。



活動方針

活動の主な目的は、水域生態系保全を目指したヨシ帯の保全である。また、親水利用の促進を図り、地域住民にとって大切にされる河川の在り方、それを保全していく体制づくりを目標にしている。

活動方針は、①ヨシ帯の保全として、アレチウリを除去するとともに、健全なヨシ帯を維持するためにヨシの刈り取りを行っている。また、②こうした保全活動を地域住民に広く周知し、参加してもらうことで、地域一体となった取り組みを推進していく。

加えて、近年減少傾向にある遊漁者とそれに伴い薄れつつある釣り文化を普及継承していきたい思いもあり、活動を行っている。そういった意味でも、まずは川に興味を持ってもらえるような活動を行うこととしている。

現在の活動は、漁協組合員が主となり、(株)天龍、(株)飯田まちづくりカンパニー、天竜川総合学習館かわらんべ(国交省と飯田市が共同運営)、市など、川や地域に関係したメンバーと連携している。



活動実績

(1) ヨシ帯保全 (アレチウリなどの除去等)

ヨシ帯の保全を図るため、天竜川支流の松川(通称:飯田松川)の2か所の区域において、ヨシ帯の刈り取り・間引きのほか、アレチウリ・ハリエンジュなどの除去を行っている。



(2) 環境学習 (体験学習)

地域住民に河川の状態に関心を持ってもらい、川の環境やヨシ帯の役割、保全活動などについて理解を深めてもらうために、親子参加型の体験学習会を開催している。



(3) モニタリング

モニタリングは、当該事業の「モニタリングの手引き(暫定版)」(平成30年6月)を基本に、ヨシ帯の被度と除去対象のアレチウリの被度を計測している。また、結果を整理し、ヨシ帯の被度が維持されているか、アレチウリの被度が減少しているかチェックしている。

活動の成果と課題

(1) ヨシ帯保全

アレチウリの除去やヨシの刈り取りを行ったことで、当初アレチウリに覆われていた堤防法面の一部でツルヨシの生育域が拡大し、被度も増加した。

また、除去対象のアレチウリは、活動開始前の2015年と4年後の2019年の生育状況を比較すると、その被度は顕著に減少した。



2014年9月



2019年9月

(2) 今後の課題

ヨシ帯の保全活動により、アレチウリ・ハリエンジュなど外来種の減少がみられる。また、ヨシの間引きにより健全なヨシ帯の生育が確認されている。しかし、アレチウリやハリエンジュなどの外来種は生命力が強く、全てを除去することが困難である。そのため、定期的な除去活動はこれらも必要と考えられる。

また、これまでに行ってきた活動の成果や体験学習を行うことによって、多くの人に、川遊びや釣りの楽しさを伝えられたと感じている。今後もこうした活動を通して、若い組合員を育て、継続した取り組み及びその体制づくりを構築できるよう、励めていきたいと考えている。